

中村学園大学・中村学園大学短期大学部 広報誌

CELERY

セロリ

2002
No.45

特集

インターンシップ・プログラム

研究内容紹介「高齢者の栄養状態と
栄養摂取量の加齢による10年間の変化」

研究トピックス「現代人の忘れもの」

「真実に出会う感動」

栄養科学部長 伊藤 和枝

15年間の調査地であるネパールの、

電気もない山村の食事は、山のようなトウモロコシのデイロ（おねり）の主食と、おわん1杯のタルカリ（野菜の煮物）である。年に1度の祭りに近所の人達とヤギを殺して1〜2切れ食べるほかには動物性食品は摂取されていなかった。ちなみに穀類が総エネルギーに占める割合は85%と高く、タンパク質も有効利用率を考えると充足されているとは考え難かった。しかし、栄養状態の指標である血清アルブミン値はほとんどの人が正常で、そのうえ、体重の1.8倍もの荷物を担いで、1日に何度も段々畑を上り下りする体力があるのだ。

学生には、動物性タンパク質は総タンパクの40%以上、成長期では45%以上必要だと説き、現在の栄養学では、それが概念となっている。

はたして本当なのか。タンパク質が不足していて、民族がこんなに長

く続くはずはない。

1999年夏、調査隊の調査に加えて、この疑問を解くために同国のトリバン大学病院の栄養士と2人で、40代の男性8名を対象に窒素出納実験を行った。連続5日間の食事と同量の食事を買い上げ、同時に5日間の24時間尿と糞便を全て採取して戴いた。もちろん、糞便と尿の処理は日本人である私の仕事である。通常、食事中の窒素量と尿・糞便中に排泄される窒素量は平衡を保つ。労働量が年間で最も多く、食料も底を突いていた農繁期の出納はマイナスを示し、タンパク質摂取量はやはり不足していた。こんなことが1年中続いているはずはないと、翌年3月、農閑期の調査で同じ人たちの窒素出納を再度お願いした。窒素出納は平衡を保っており、タンパク質は充足されていた。そして、体重は全員夏に比べ3〜4kg増加していたにもかかわらず、体脂肪量は変わっていない。

た。調査隊では、「村民約400名の体重が増えているのに体脂肪が変わらないはずはない。」と、体脂肪の測定者が責められていたのである。しかし、私の調べた5日間の尿中の筋肉量を示すクレアチニンは全員有意に増加し、筋肉の増加が示されたのである。

つまり、農繁期には、食事で不足するタンパク質は、からだの筋肉を壊して補われており、農閑期には、タンパク質が充足されて筋肉量は増加し、体重増加につながったのである。体重増加は体脂肪の増加という概念は、ネパールでは当てはまらない栄養学だったのだ。しかし、成人の窒素平衡維持量は、ネパールでも変わらなかった。

厳しい環境下で、ネパールのタンパク栄養を自分の手で確かめられた感動と喜びは忘れることができない。

一人でも多くの学生が、小さな真実の発見に出会って感動し、面白さを感じてくれることをひそかに願っている。



中村学園大学・中村学園大学短期大学部 広報誌

CELERY

セロリ

2002
No.45

C O N T E N T S

リレーエッセイ 第8回

真実に出会う感動 ①

学長退任の挨拶 ③

学長就任にあたって ④

特集

インターンシップ・プログラム ⑤

研究内容紹介 ⑨

『高齢者の栄養状態と栄養摂取量の加齢による10年間の変化』

研究トピックス『現代人の忘れもの』 ⑩

平成15年度入学試験のお知らせ ⑪

図書館だより ⑫

イベント&ニュース ⑬

メルボルン大学語学研修

オープンキャンパス

薬膳研究室主催公開講座

指導主任研修会

教育ワークショップ／公開講座

全国朝市サミット

アジア栄養科学ワークショップ

山元学長退任記念講演会

研究助成・受託研究等採択状況／教職員の動き

教職員の出版物

【今月の表紙】 西4号館 中庭

学長退任の挨拶

山元 寅男



平成2年4月に本学に大学院が設置され、栄養形態学担当教授として着任してから早12年7ヶ月が過ぎてしまいました。当時は栄養形態学部門をどのような形に作ろうかと苦心しておりましたが、幸いにも電子顕微鏡も設置して頂きましたので、超微形態学の立場から栄養、特に細胞栄養学を始めようと考え一年が過ぎました。平成3年になりますと中村久雄理事長(当時)から学長をやってくれないかと言われました。私は電子顕微鏡学の専門家として本学に参りましたので、栄養形態学の教育と研究に専念したいと、折角のお話を強く辞退致しました。しかし、諸般の事情からとうとう学長をお引き受

けることになりました。時、あたかも、我が国の教育改革の始まりの年でもあり、大変な役目を引き受けることになりました。この年の教育改革は、明治の学制発布、終戦後、占領軍による教育改革、それに次いで、3番目の教育大改革と言われるものでした。高等教育では大学設置基準の大改革が行われ、これに対応して、本学でも、早速教員及び事務職員からなる教育改善会議を設置しました。この会議で教員・事務職員の代表の方々に集まり頂き、30数回の勉強会を経て、本学各学科の教育目標を明確に設定し、その目標達成のための教科目を定めて、その目標達成のための諸改革を実施しました。高等教育の大衆化に伴い、教育の質の向上のために、教員のファカルティデベロップメント(FD)の推進に努めて頂き、また、教育の目標達成の検証のための自己点検・自己評価、更には「学生による授業評価」制度を他の大学に先駆けて実施するなど、大学改革を着実に進めてきました。また、入試制度の確立も致しました。一方、研究面でも、学長就任当時、文部省科学研究費はわずか2、3件の採択でしたが、大学の使命として、知的遺産の継承と共に、知的

創造のあることから、先生方の研究の発展も訴えて参りました。今日では科学研究費の採択数も17件ほどに増えてきました。これらの改革の成果は、私学冬の時代と言われる今日でも、受験生に選ばれる大学として、社会的に認知されていることから判ります。これらのことが可能であったのは、ひとえに、理事長はじめ、教員、事務職員全ての皆様方のご理解とご協力と教育に対する限らない情熱の賜と深く感謝致しております。本学は私にとりまして、楽しい、やり甲斐のある、また、忘れがたい教育研究機関でありました。ありがとうございました。今後ともこれまでも増して大きく発展しますことを願っております。

プロフィール

Yamamoto Torao

大正15年7月10日生。九州大学医学部卒業。医学博士。広島大学医学部助教授、アメリカ・ワシントン州立大学医学部、新潟大学医学部教授、九州大学医学部教授・医学部長を歴任し、平成2年4月より中村学園大学に着任。平成3年4月から平成14年10月まで中村学園大学・中村学園大学短期大学部学長。平成14年11月より学校法人中村学園顧問に就任。

学長就任にあたって

学 長 藤 本 淳



本年11月1日付けをもちまして、山元寅男学長の後任を仰せつかることになりました。本学は、昭和29年、福岡高等栄養学校として発足して以来、中村栄養短期大学、さらに中村学園大学家政学部の開学を経て、学園祖中村ハル先生の建学の精神に則り、多くの有能な職業人を世に輩出し、現在では、本年度の家政学部改組による栄養科学部と人間発達学部の発足に加えて、平成12年度に設置された流通科学部の3学部と短期大学部からなる西日本屈指の伝統と実績のある総合大学として発展してまいりました。高度経済成長時代の終焉を向え、従来の日本的経営法から脱脚しようとする

構造改革の波は大学にも波及し、大学は自らの存続をかけて、その独自性を打ち出すための教育改革に主眼をおいた大学改革を推進してきましたが、平成16年度から実施される予定の国立大学法人化を目前にし、大学間の自由競争は、少子化社会の到来と重なり、今後、一段と激しさを増していきます。伝統や過去の実績、先輩の経験に頼るだけでは大学の存続が危うくなる時代がやがて訪れます。

本学においても、前学長・教職員のご努力によって教育改革が推進され、制度的には、他大学と比較して優るとも劣らない教育体制が出来上がりました。今後とも、建学の精神にある教育研究の基本理念を遵守し、将来の職業人として社会に十分に対応出来る人材育成のための自己開発型教育を目指していきます。

経済社会の急激な変動によって生涯学習・高度学習社会が到来しました。本学にも資格取得を目指す卒業生を含む社会人を対象とした高度職業人養成への対応が求められています。平成2年度に栄養科学専攻の修士課程が設置されてから10年以上が経ちましたが、現在、平成16年度からの博士後期課程設置に

向けての準備を鋭意進めています。加えて、人間発達学部と流通科学部の修士課程設置のための具体案を早急に立てなければなりません。大学は、今後、益々地域社会に開かれた存在になります。我々は、知的情報の発信源としての地域貢献のみに止まることなく、地域形成の核を目指すべきです。そのためには、本学が果たしうる役割についての自己点検と同時に、我々教員の研究成果の一層厳しい自己点検も要求されます。

本学の益々の発展と充実に全力を尽す所存でございますので、学生、教職員、後援会、同窓会の皆様、さらに中村学園関係各位のご支援とご協力をお願いいたします。

プロフィール

Fujimoto Sunao

昭和11年7月29日生。九州大学医学部卒業。医学博士。専門分野は「解剖学・組織学」。九州大学医学部助手、久留米大学医学部助教授を経て産業医科大学医学部教授。学生部長、医学部長を歴任。平成14年4月より中村学園大学大学院教授。同年11月より中村学園大学・中村学園大学短期大学部学長に就任。

流通科学部 インターンシップ・プログラム

平成12年4月に流通科学部が開設して、今年で3年目となります。
1・2年次に「流通科学」の基礎を学んだ学生たちが、福岡のビジネスに直に触れるチャンスがやってきました。
今回の特集は、流通科学部初の試み「インターンシップ・プログラム」です。

流通科学部におけるインターンシップの取り組み

流通科学部 流通科学科 講師 柳澤さおり

・インターンシップ・プログラムについて

インターンシップという言葉は耳にするようになって久しい。文部科学省では、インターンシップを「学生が、在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と定義している。

流通科学部では、今年度から本学部の3年生を対象に、学生が①実習を通じて流通科学についての理解を深め、実践的能力を身につける、②企業を運営していく組織や企業内の様々な職種について理解を深める、③従業員の一人としての役割を認識し、責任と自律的態度を養う、④実習の中から問題を発見し、解決する能力を養う、そして⑤実習先の企業の特性を理解し、自主的に新たな提案を行う能力を養う、ことを目的として、全教員が協力してインターンシップ・プログラムを実施している。

・一定の課題をクリアした学生だけが参加

多くの大学においてインターンシップ・プログラムが実施されているが、その実情は大学によってかなり異なる。たとえば、ただ単にインターンシップ実施企業の情報を提供し、学生が自由に参加できるような学校もある。一方、インターンシップ専任教員や職員が講義や訓練を行い、厳しい選抜テストに合格した者だけが参加できる選抜方式によるプログラムを実施する学校もある。

流通科学部では、インターンシップ・プログラムに参加する学生を「中村学園大学流通科学部の代表」として位置づけ、意欲が高く、問題意識を持ち、就業に必要な基本的知識を習得した学生だけを企業に送り出す選抜方式をとった。この方式は実際の企業における採用試験のコミュニケーションとなることを意識したもので、学生

には就業することの厳しさを理解させるとともに、将来行うことになる就職活動への心構えを持たせる役割も果たしている。また、受け入れ企業に対しても、一定の課題をクリアした学生だけが参加することを説明することで、学生の受け入れに伴う不安感を低減し、本学への信頼感を高めるねらいもある。

・入念な事前研修の後、各自で実習テーマを設定

次に流通科学部におけるインターンシップ・プログラムの概要について説明する。学生には、3度の説明会への参加と3回の事前レポートの執筆、そしてレポートを基にしたプレゼンテーションとグループ・ディスカッションが求められた。これを通じて、学生はインターンシップ・プログラムに参加することの意義、目的を十分に理解し、自分が働きたい企業や業界についての基本的知識を獲得し、そのうえで最終的なインターンシップの実習テーマを確定した。この過程で、当初の目的であるインターンシップ・プログラムに対する意識の高い学生が残った。さらに、これらの学生は2回の事前講習を受講す

ることによって、企業で働く際に必要な知識やマナーを身につけた。そして実習中には実習日誌を、実習後には実習レポートや実習報告書を作成することで、自分が学習したことを実習テーマと関連づけ、自身の態度や行動を振り返った。

ここで、実習先企業の指導担当者からの学生に対するコメントの一部を紹介する。

実習先企業からのコメント

- ・大変優れており、現時点で社会に出て、いち早く戦力になると感じました。
- ・非常に誠実に仕事に対して取り組んでいました。また、様々な問題意識もあり、このままさらに勉学に励んでもらいたいと思います。
- ・生活態度を見ていて、礼儀正しさ、素直さ、物事に対する真摯な姿勢に、世の中まだ捨てたものでもないな、と思いました。現在世間でいわれているような「今の若いもんは・・・」というところが全くなく、この学生と接していて家庭のしつけ、学校での指導の良さが感じられました。
- ・前向きに考えることが、これからの社会においてヒューマンスキルとして必要となってきました。日ごろから前向きに考える癖をつけて、自分を磨いてください。
- ・こちらから仕事を頼んだときの素直さは評価できる。ただ、仕事がないときに、作業がないかどうかを聞きにくくともうと良かった。

これらのコメントを読むと、企業の方の目から見て、即戦力になるような学生もいる一方で、一層の努力が必要な学生もいることが分かる。このことは、今後プログラムの見直しのなかで、検討していかねばならない課題であると考えている。

インターシップ・プログラムの成果

企業で実習することが、必ずしも直接的に就職につながるというわけではない。しかし、インターシップ・プログラムに参加した学生の就職率が高い傾向にあることを示している。これは、企業実習が、学生の学習意欲や職業意識を高め、自主性、独創性、柔軟性を身につけさせ、その後のものごとの考え方や態度、行動に肯定的な影響を及ぼすためであろう。このような学生を企業が採用したいと考えるのは当然のことである。

インターシップ・プログラムに参加したことが、楽しかったあるいは充実していたと感じる学生ばかりではない。なかにはつらい経験だった学生もいるかもしれない。しかしながら、学生の立場で企業組織の一員となつて働き、社会の厳しさを実感することは、大変貴重な体験であり、その後の学生の人的成長を促すことになる。と我々教員は信じている。

インターシップ・プログラム実習スケジュール例 ロイヤル(株)

	勤務時間	説 明	実施場所
1日目	9:30～17:00	午前 オリエンテーション・会社概要 午後 マナー講座・センター案内	ロイヤル本社
2日目	9:45～17:00	午前 工場見学(パン・洋菓子) 午後 工場見学(機内食・セントラルキッチン)	工 場
3日目	9:45～17:00	午前 店舗視察(市内店舗) 午後 店舗視察(市内店舗)	天 神
4日目	随 時	午前 市場調査(福岡市のカフェ) 午後 市場調査	天 神
5日目	随 時	午前 市場調査 午後 市場調査	天 神
6日目	9:45～17:00	午前 市場調査についてのまとめ 午後 食品衛生(講義・見学)	ロイヤル本社
7日目	9:30～17:00	午前 機内食工場実習 午後 機内食工場実習	ケータリング 工 場
8日目	9:30～17:00	午前 FCK(福岡セントラルキッチン)工場実習 午後 FCK工場実習	F C K 工 場
9日目	9:30～17:00	午前 FCK工場実習 午後 FCK工場実習	F C K 工 場
10日目	15:00～17:00	午前 研究課題の提出、ロイヤルのまとめ 午後	ロイヤル本社

2002年度 インターシップ・プログラム 協力企業・団体

アドベンチャーインターナショナル/石村萬盛堂/井筒屋/岩田屋/NTTDコモ九州/近畿日本ツーリスト/コカ・コーラウエストジャパン/佐賀銀行/サニー/祥文社印刷/セムインターナショナル/セムプランニング/セムマルマツ/セラビ/大広/東陶機器/西鉄旅行/日本通運/日本旅行/はせがわ/博運社/ピア(ボン・ラパス)/福岡シティ銀行/福岡ドーム/福岡貿易会/ふくや/扶桑倉庫/ベスト電器/丸善/やずや/ロイヤル/中村学園事業部/福岡市港湾局(福岡市役所)/福岡市経済振興局(福岡市役所)/太宰府市役所(税務補助)/太宰府市役所(秘書補助)



▲扶桑倉庫国際輸送事業部海上貨物事業所にて実習中の境 武士さん(左)

インターンシップ

参加学生体験談

実際にインターンシップを経験した流通科学部流通科学科3年生5人にプログラムの内容や感想を語ってもらいました。

インターンシップ・
プログラム配属先
扶桑倉庫



流通科学部 流通科学科3年
境 武士

私は、「物流業界を知りたい」というインターンシップの目標を持っていたため、扶桑倉庫を実習先として選びました。10日間にわたる実習では、様々な物流の現場を体験することができました。

博多埠頭のコンテナヤード、博多税関、福岡空港など海外と商品を取引する際の輸出入の現場では、輸送コストや時間などに関する顧客のニーズに合わせて、海上輸送や航空輸送など多様なルートについて最適な組み合わせを行い、合理的な輸送サービスの提供が行われていました。また、そこで働く通関士の方が持つ知識の豊富さに驚かされました。そして、輸送に伴う各種付帯サービスである貨物の集配、混載、仕分け、保管、梱包などいろいろな仕事内容も理解することができました。

多種多様な現場を見学し、実際に働くことによって、流通科学部の授業で学んだ物流業界について、以前よりも広い視野で見ることができるようになりました。さらに、実習を通して、物流業界に限らず、どのような企業組織においても共通して重要なことがある事が分かりました。それは、顧客に満足してもらい、仕事のミスをなくすためには、相手とのコミュニケーションや信頼が非常に大切なことであること、どのような仕事においても社員全員が協力しあって仕事の質を高めなければならないことです。

あつという間のインターンシップでしたが、企業という未知の世界を体験できたことは、自分にとって大きな経験でした。

インターンシップ・
プログラム配属先
ロイヤル株式会社



流通科学部 流通科学科3年
鶴 朋子

街角でよく見るロイヤルホスト、しかし店舗ではなく私がインターンシップに訪れたのはロイヤル本社です。大きな企業でもありファミリーレストランの老舗。そんな企業がどんな経営をしているかということに興味があつて希望しました。簡単には入り込めない会社の内部。会社の業務内容を見たり聞いたり、あるときは市内の店舗視察に出かけ、最後には工場で食品を作る実習まで体験するというかなりハードなスケジュールでした。10日間という限られた時間の中でここまで真剣にインターンシップの内容を考えてくれた企業は少ないのでは、と感謝しています。研修の最初はかなりプレッシャーを感じていましたが、その場面場面に社員の皆さんがとても親切に、そして熱心に接してくださいました。人との接し方を改めて学び、こんな基本的なことがこれほど大切に思えたことはありません。ロイヤルは食品企業ですが、ホスピタリティ企業という大きな夢を掲げています。ホスピタリティとは人に喜んでいただけるサービスや心配りをすること、ここにも人との接し方について繋がるものがあるなど感じました。そういう意味で、これからの企業は今、新しい方向を模索しています。福岡を代表するロイヤルで、私はその重要な一部分を見ることができたと思うし、社員の方々と一緒に考え、お話しすることが出来ました。大きな理念、目標を持って現状打破しようとする、そんな真摯な企業がここ福岡にあることは私にとって大変意味のあることです。熱意を持って多くのことに取り組み、自分を高める努力をしなければならない、そして福岡で何かできるか考えたいと思います。

インターンシップ・
プログラム配属先
株式会社やすや



流通科学部 流通科学科3年
江口 諒子

私は、今回「株式会社やすや」にお世話になりました。『やすやの香醋』で有名な通信販売の会社で、主に健康食品を扱っています。私が、この会社を研修先に選んだのは、実はこの会社のホームページを見たからです。インターンシップ・プログラムに参加しようと決めてはいたものの、研修先を決めることが出来ずに迷っていました。自分がこれから就職活動をしていく上で、何が足りないか、自分のどういう部分が社会に出て役立つのか、そういうことを知ることがなかったので、具体的に参加したい企業が最初からあったわけではなかったのです。そんな中、実習先リストに載っていた企業の中で、何社かホームページを見ていたところ、この「株式会社やすや」の業務内容・経営方針に心惹かれるものを感じ、「この会社しよう」と決心しました。

この会社は、社長をはじめ、社員の方がほとんど女性です。ひっきりなしにかかってくる注文の電話に、女性らしい細やかな心配りでお客様に対応し、また、お客様へのお礼状やご案内などの手紙、その内容も全て手作りで、お客様に差し上げるサンプルなども社員がパッケージに詰めているのです。だから、社員の方は自分がこの会社を支えているのだと誇らしげにしています。私達が実務に関わることはあまりありませんでしたが、そういう方々にお話を伺い、これから就職活動などを行う際に考えるべき点や、これからの自分の人生を生きるうえで必要なことなど、色々なことを教えていただきました。学生という時間のある間に社会を体験し、自身を成長させるきっかけを得ることが出来て本当に良かったと思います。

インターンシップ・
プログラム配属先
中村学園事業部



流通科学部 流通科学科3年
添田 智英

「流通の現場で直に働きたい。」その思いから僕は、学校法人中村学園事業部に2週間のインターンシップ・プログラムに参加しました。最初は、この研修で一体自分に何ができるのか、何をすることができるとかなど不安で頭が一杯でした。というのも知識も少ないうえに何をするか分からなかったからです。

実習のテーマは「給食産業の流通の実態を把握すること」。実際に現場に行つて、仕入れ・加工・調理・盛り付け・食事の提供までの流通過程がどのように動いているのかなど幅広く体験してきました。大学の講義と違って、流通の現場で実際に行動したり考えたりすることは、初めてだったので、とても勉強になりました。今回、研修をさせていただいた中で最も大きな収穫は、仕事は与えられるのではなく、自分で見つけるということを知ったことです。それは、自分たち学生と社会人の違いでもあります。社会人というのはただ課題を与えられるのを待つのではなく、自分から周りに働きかけて仕事を作らなければなりません。それは、自分たち学生でも言えることです。この他にも学んだことはたくさんあります。今までに体験したことのない分野でも、積極的に参加・行動すれば必ずよい結果が得られるという大きな自信がついたこと。さらに社会に出る前に、現時点で自分に何が不足しているのかを知ることができたので、今後、その不足部分を補えるような努力、勉強をする心構えができたこと。インターンシップ・プログラムによって変わった意識を高めて継続していききたいと思います。

インターンシップ・
プログラム配属先
株式会社福岡ドーム



流通科学部 流通科学科3年
中鶴 美由紀

今まで流通科学部で学んだ様々なことが、実際の社会ではどのように関連しているのかを企業実習を通じてより深く理解したいと考え、インターンシップ・プログラムに参加しました。

私がインターン先として働かせて頂いた企業は、株式会社福岡ドームの「シーホークホテル&リゾート」料飲サービス部です。今回私には、ある目的がありました。『サービスマン』は自分にあっているか、どのような仕事で自分に適しているか改めて考え、将来の職業選択を考える上で参考にしたい」という実習テーマがあったのです。

私の仕事は、接客・オーダーの受け入れ・料理運び・下げ膳などであり、集団のメンバーとして働かせて頂きました。そこで感じたことは、集団で仕事を進めるときのリーダーの影響力の大きさでした。リーダーである責任者が、ただ仕事について指示するだけでなく、周りの人間関係も配慮することで皆が生き生きとやる気をもって働けることを学んだのです。また、先輩方の接客の対応をみることで、ただお客様の要望に対応するだけでは不十分で、お客様と接するときには満足感を提供しおもてなしする気持ちで、臨機応変にあらゆるニーズに対応する柔軟性が必要不可欠であるということに気づかされました。

このインターンシップを経験することで新たに自分の中の視野が広がりました。また自分の能力・実力の限界・未熟さも知ることができました。まだ明確ではないのですが、インターンシップに参加したことで実習テーマに対する答えが見えつつあります。今後就職活動をするにあたっては、非常に有意義な体験だったと思います。

高齢者の栄養状態と栄養摂取量の加齢による10年間の変化

短期大学部 食物栄養科 教授 城田知子

わが国における65歳以上の高齢者は2000万人を越え、総人口に占める割合は17.5%となり、2020年には26.9%に達すると予測されています。高齢化に伴う寝たきりや痴呆の増加、要介護の問題は緊急性を要する社会問題としてその取り組みも始まっており、なかでも、身体的・精神的に豊かな食生活はQOL (Quality Of Life: 生活の質) 改善の基礎であることから、厚生労働省は、第3次国民健康づくり対策「健康日本21」において、健康寿命の延伸やQOLの向上を目指して具体的な運動を展開しています。高齢者が良好な栄養状態を維持し、心身共に健康を保持増進するための方策の一つに栄養・食生活のあり方があります。

私は、1985年から久山町の検診事業に参加して、成人の栄養調査を実施しています。栄養調査法には多種類のものがあり、個人や集団、或いは、調査の目的によってその方法の選択基準が異なります。久山町では、栄養調査を住民の成人病検診の一項目として位置づけています。そこで、私たちは、地域集団の多人数を対象とするために、多くの時間や経費をかけないで実施できる方法として「半定量的頻度法」(食習慣調査)を開発しました。同一対象者の秤量法による調査結果と比較してその調査法の再現性や妥当性の検討を行い、有用性が認められましたので、本方法で継続実施しています。今回報告する高齢者の追跡研究は、1988年の検診を受診した60歳以上の住民のうち、1998年の検診をも受診し、さらに両年の検診で栄養調査を受けた387人のデータを用いて10年間の加齢による変化を検討したものです。データの一部を表に示します。

男女とも身長、体重、BMIの減少と、ヘモグロビン、血清鉄、総たんぱく質、総コレステロールは加齢により低下しましたが、血清アルブミンとHDL-コレステロールは上昇しました。栄養調査結果からその特徴をみると、加齢により体格が小さくなったことに加えて、日常の生活活動量が減少し、食欲低下と相まって食事摂取量が少なくなったことから、エネルギー摂取量が減少しました。しかし、たんぱく質、脂肪の摂取量の減少はみられず、食品摂取の内容も米の減少はみられましたが、魚介類、肉類など主菜となる動物性食品や牛乳・乳製品の摂取水

準は良好に保たれておりました。このことが、血清アルブミンの維持と血清脂質の改善に寄与していると考えられ、健康な高齢者が健康を維持するために加齢に適応して食生活を変化させたことによるものと考えられます。このことは、平成2年に示された「高齢者のための食生活指針」の一項目である「副食から食べよう」が、高齢者の生理的な機能低下を踏まえての指針であると考えられ、今回の結果もこのことを支持できるものでありました。

栄養調査からevidence (根拠) を読みとるためには、いかに客観的に事実を読み取るか (評価するか) ということですが、栄養調査の結果はいつも何らかの誤差や偏りを含んでいるためにその信頼性を常に考慮しなければならないと考えています。限られた人的、物的、時間的条件の中で、栄養士・管理栄養士の業務に繋いでいくために、また、疫学研究等に寄与できる資料になり得るための栄養調査を実施していきたいと考えています。実施に当たっては、久山町の住民や関係者の方々はもとより、多くの学生さんにご協力をいただき大変感謝しています。

Table1 Selected physical characteristics of the subjects in 1988 and 1998 by sex

	Men (n=162)		Women (n=225)	
	1988	1998	1988	1998
Age (years)	65	75	66	76
Height (cm)	160.4	159.3 **	148.4	146.0 **
Weight (kg)	58.7	56.2 *	50.2	47.7 **
Body mass index (kg/m ²)	22.8	22.1 *	22.7	22.3 **
Total protein (g/dl)	7.4	7.2 **	7.4	7.1 **
Albumin (g/dl)	4.2	4.3 **	4.2	4.3 **
Total cholesterol (mg/dl)	194	185 **	224	209 **
Triglycerides (mg/dl)	126	126	123	113
HDL-cholesterol (mg/dl)	49	54	50	60 **
Hemoglobin (g/dl)	14.9	13.9 **	13.3	12.6 **
Serum iron (μg/dl)	132	104 **	107	87 **

Values are means. ** p<0.01, * p<0.05 vs 1988

Table2 Comparison of mean values of nutrient intakes between two dietary examinations in 1988 and 1998 by sex

	Men (n=162)		Women (n=225)	
	1988	1998	1988	1998
Energy (kcal)	1,925	1,818 **	1,610	1,534 **
Protein (g)	63.4	63.7	55.3	54.8
Animal Protein (g)	23.9	24.5	19.3	19.9
Fat (g)	52.4	52.5	49.4	48.4
Animal Fat (g)	16.8	15.8	16.2	14.0 **
Carbohydrates (g)	260.2	238.4 **	225.3	208.8 **
Calcium (mg)	618	656	558	602 **

Values are means. ** p<0.01, * p<0.05 vs 1988



プロフィール

中村栄養短期大学卒業。管理栄養士。医学博士。社団法人福岡県栄養士会会長(平成12年から)。専門分野は、栄養指導論、栄養学実習など。主な研究テーマは、「久山町における栄養疫学研究」で、高齢者の加齢による食生活の変化や生活習慣病発症と予防に関する食事性因子の研究に取り組んでいる。

現代人の忘れもの

短期大学部 家政経済科 教授 福田 靖

近年の科学技術の発展は、私たちの生活向上に、数多くの“果実”を提供してくれました。おかげで“暖衣飽食”の時代、と言われるほど豊かな生活を過ごしているわけですが、かつて日本人が持っていた、心ゆたかな“情緒性”が薄れ、“ものの考え方”が多様化し、社会生活を送る上での“規範意識”が稀薄になってきたように思えます。

例えば、果物や野菜や草花のハウス栽培は、食卓を飾る“彩り”や“味覚”の季節感を失わせ、冷暖房器具の普及は、高温多湿の夏の厳しさも、厳しい冬の寒さもない、心地よい生活を送ることができるようになりました。しかし、その反面、夏の灼熱の太陽と海、もの悲しい虫の声や秋の月、木枯しが吹きすさび雪で彩られる冬、空高く飛翔する小鳥のさえずりや、みずみずしい新緑に装われた春。四季折々の自然のうつろいを、感傷に浸って眺める世界が、非常に狭まってきたような感じがします。

私たちの社会生活に目を転じますと、官民を問わず不祥事件の続発は、横一列に並んだ組織のトップが、深々と頭をさげるテレビの映像に、半ば慣れっこになってしまうほど乱脈を極めています。

それを生み出した背景には、私たち日本人の“価値”の規範が稀薄化し、「何が美しく、何が醜いのか」、「何が正しく、何が不正なのか」、「何が良いことで、何が悪いことか」、という規範が非常にあいまいになり、また個人の生活態度にも、「何に“価値”をおいて生きていくべきか」、という本源的な問い、つまり私たちの行動を支える“精神的支柱”が揺らいでいるような気がします。

私たち相互の人間関係を見わたしても、“関係”の稀薄化が進み、「自分に忠実に、自分らしく、自分なりに生きたい。自分は自分、他人は他人、

という気持ちがこんなに強いのも、歴史始まって以来のもの……」と言わしめるほど、自己中心的傾向が年々強くなっていることを、いろいろな調査が物語っています。

私たちの身近な日常行動を例にとって言えば、傍若無人の携帯電話の使用、交通ルールの無視、乗り物の中で席を譲らない、静粛を保つべきところでの談笑、奇異をてらったファッション、空き箱やタバコやガムのポイ捨て等、眉をひそめる場面を数え上げたらキリがありません。

マナーとは、社会の一員として「そうしなければならぬこと」であり、エチケットとは、他人に“不快感”を与えない「してはいけないこと」です。

本来私たち日本人は、“恥”の文化をもち“情緒的”で、“おもいやり”や“慎み深い”精神文化を持つ民族としての特性を持っていました。暖衣飽食の現代、私たちは“恥”も“外聞”も忘れてしまったのでしょうか？

「現代人は、大量の情報を受け取る一方で、大量の常識を失っている」(G.シュタイン)という言葉も、実感をもって感じる現代ほど、残念なことはありません。

“倫理”や“道徳”の再構築を計ること。これは、現代に生きる私たちの急務とすべき、大きな課題であろうと思います。



■プロフィール

神奈川大学法経学部経済学科卒業。(株)西日本銀行 支店長、経営相談所長、人事部研修所長、同行監査役等を経て現職。専門分野は、リーダーシップ論、人間関係論。現在の研究テーマは、就労者の伝統的特質(忠誠心、帰属意識、関係の稀薄化 等)が薄れる中で、「現代の経営組織における“個”と“集団”との関わり合いの変化の研究～特にマネジメントのあり方を中心に…」。

平成15年度 入学試験のお知らせ

栄養科学部・人間発達学部

募集学部・学科・専攻・入学定員・募集人員

学 部	学 科	専 攻	入学定員	推薦入学選考募集人員		試験入学選考募集人員
				公募制	併設高校	
栄 養 学 部	栄 養 学 科	—	200名	70名	30名	100名
人間発達学部	人間発達学科	幼児発達学専攻	100名	40名	10名	50名
		児童発達学専攻	50名	18名	7名	25名

日程及び選考

■推薦入学選考

【出願期間】平成14年11月1日(金)～11月12日(火)
【選 考 日】平成14年11月19日(火)
【選考科目】1. 小論文 10:00～11:30(90分)
2. 面接 12:30～
【選 考 場】本校(福岡)
【選考方法】調査書・小論文・面接による総合評価とする。
【合格者発表】平成14年11月30日(土)

■試験入学選考

【出願期間】平成15年1月6日(月)～1月24日(金)
【試 験 日】平成15年2月2日(日)
【試験科目】1. 国 語 10:00～11:00(60分)
2. 英 語 11:45～12:45(60分)
3. 選択科目 13:45～14:45(60分) ※
【試 験 場】本校(福岡)・広島・宮崎・鹿児島
【選考方法】3科目の合計得点(各科目100点、300点満点)による。
【合格者発表】平成15年2月9日(日)

※・国語(国語Ⅰ・Ⅱ(漢文を除く))
・英語(英語Ⅰ・Ⅱ)
・選択科目一下記の○印の中から1科目を選択

選択科目	栄養科学科	人間発達学科
数学Ⅰ・Ⅱ、 数学A(数と式のみ)	○	○
化学IB	○	○
生物IB	○	○
地理B	—	○
日本史B	—	○
世界史B	—	○

流通科学部

募集学科・入学定員・募集人員

学 科	入学定員	推薦入学選考募集人員			試験入学選考募集人員	外国人留学生募集人員
		公募制	併設高校	指定校		
流 通 学 科	【推 薦】	95名	20名	30名	45名	—
	【前 期】	75名	—	—	—	75名
	【後 期】	10名	—	—	—	10名
	【留学生】	10名	—	—	—	10名

日程及び選考

■推薦入学選考

【出願期間】平成14年11月1日(金)～11月12日(火)
【選 考 日】平成14年11月19日(火)
【選考科目】1. 小論文 10:00～11:30(90分) 2. 面接 12:30～
【選 考 場】本校(福岡)
【選考方法】調査書・小論文・面接による総合評価とする。
【合格者発表】平成14年11月30日(土)

■試験入学選考

【出願期間】前期:平成15年1月 6日(月)～1月24日(金)
後期:平成15年2月24日(月)～3月 6日(木)
【試 験 日】前期:平成15年2月1日(土) 後期:平成15年3月11日(火)
【試験科目】選択科目 10:00～12:00(120分)※
【試 験 場】前期:本校(福岡)・広島・宮崎・鹿児島 後期:本校(福岡)
【選考方法】2科目の合計得点(各科目100点、200点満点)による。
【合格者発表】前期:平成15年2月9日(日) 後期:平成15年3月15日(土)
※選択科目一下記の○印【前期】5教科、【後期】4教科から2科目を選択
(同一教科から2科目の選択はできない。)

教 科	科 目	【前期】	【後期】
国 語	国語Ⅰ・Ⅱ (漢文を除く)	○	○
英 語	英語Ⅰ・Ⅱ	○	○
数 学	数学Ⅰ・Ⅱ 数学A (数と式のみ)	○	○
理 科	化学 IB	○	—
	生物 IB	○	—
地理歴史	地理 B	○	—
	日本史B	○	○
	世界史B	○	○

◎流通科学科 指定校制推薦入試の実施については別に定める。

短期大学部

募集科・入学定員・募集人員

科	入学定員	推薦入学選考募集人員				試験入学選考募集人員
		公募制	併設高校	指定校	自己推薦制	
食物栄養科	150名	94名	16名	—	—	40名
家政経済科	190名	10名	30名	120名	10名	20名
幼児教育科	150名	90名	20名	—	—	40名

日程及び選考

■推薦入学選考

【出願期間】平成14年11月1日(金)～11月12日(火)
【選 考 日】平成14年11月20日(水)
【選考科目】1. 小論文 10:00～11:30(90分) 2. 面接 12:30～
【選 考 場】本校(福岡)
【選考方法】調査書・小論文・面接による総合評価とする。
【合格者発表】平成14年11月30日(土)

■試験入学選考

【出願期間】平成15年1月 6日(月)～1月24日(金)
【試 験 日】平成15年2月3日(月)
【試験科目】1. 英 語 10:00～11:00(60分) 全科必須
2. 国 語 11:45～12:45(60分) 家政経済科・幼児教育科必須
選択科目 11:45～12:45(60分) 食物栄養科のみ※
【試 験 場】本校(福岡)
【選考方法】2科目の合計得点(各科目100点、200点満点)による。
【合格者発表】平成15年2月9日(日)
※国語Ⅰ・Ⅱ(古文、漢文を除く)、生物IB、化学IBから1科目選択

◎家政経済科指定校制、自己推薦制入試の実施については、別に定める。

◎幼児教育科の出願希望者は、選考において音楽実技テストを課さないが、幼稚園教諭や保育士を志す者として、入学時にバイエル教則本40番までを演奏することができ、かつコールユーブンゲン2度音程を歌えることが望ましい。

外国人留学生、帰国子女、社会人の入学試験の実施については別に定めます。
詳細は入試課(TEL)092-851-2531までお問い合わせください。

《資料や文献はどのようにして探したらいいの?》

—文献探しのマジック—

皆さん方は、レポートや論文でテーマを与えられた時、図書や学術雑誌をどのようにして探すのでしょうか!!

文献探し

テーマについてどんな資料があるのでしょうか? 図書や雑誌を探すために文献検索をしてみませんか。文献検索にはデータベースを利用することが一番の近道です。和文のデータベース検索としては、NACSIS-IR¹、JOIS²などがあります。外国の文献の場合はDIALOG³検索、PubMed⁴から検索しましょう。目的の雑誌や記事がみつかったら、どこにあるか、本学図書館の蔵書検索をします。蔵書検索の結果、当館に資料がない場合はWebCat⁵で所蔵館を探してみましょう。他の大学にある時は大学間相互利用制度を利用することができます。カウンターでその方法を尋ねましょう。

1. 国立情報学研究所(NII)が提供する情報検索サービス
2. JST(科学技術振興事業団)オンライン情報システム
3. Dialog(ダイアログ)社(本社:米国ノースカロライナ)が、米国カリフォルニア州パロアルトにホストを置き、提供するオンライン情報検索システムです。
(株)G Searchが代理店
4. 医学文献データベースMEDLINEの無料サービス
5. 国立情報学研究所(NII)がサービスしている総合目録データベース

インターネット検索で資料をゲット

もう一つの検索手段としては、インターネットを利用する方法です。図書館のホームページに「リンク集」があります。リンク集の中の「検索エンジン」にYahoo, Google, gooなどがあります。自分のテーマやキーワードを入れて検索すると、研究者が掲載しているホームページへ行き着くことができます。

大学研究者のホームページや公の研究所がグループ研究としてホームページを開設しています。そのようなホームページは信頼できます。参考文献にも利用できます。そこには、更に、自分に必要な学術雑誌へリンクされていることがあります。

電子ジャーナルの効用

学術雑誌には、デジタル化された電子ジャーナルになっていて、オンラインで手にいれることができる雑誌があります。ほとんどが有料ですが、中には「FREE full text」と書いてあり利用者IDやパスワードがなくてもアクセスすることができるものもあります。PubMedで探した場合に、時々「FREE full text」と枠つきで書かれていますので、見逃さないで試してみましょう。

電子ジャーナルはペーパーの最新号が図書館に到着する前に見ることができます。速報性が高いジャーナルです。いち早く研究論文を読むことができ、便利です。

最後に参考文献を忘れずに

図書や学術雑誌がみつければ、レポートや論文作成にとりかかることができますが、その時、使用した参考文献として、書名、誌名、著者、論題の著者、巻号、ページ、年代、出版社を忘れないように記録しておきましょう。インターネット検索であっても、そのサイトを記録しておく、最近参考文献として利用できます。参考文献は正確に書かなければ、役にたちません。もし参考文献に間違いがあれば、その文献を取り寄せることができません。レポートや論文の参考文献や引用文献は忘れずに、正確に書きましょう。

新 着 情 報

食べて治す医学大事典 (主婦と生活社)



一病気回復・免疫力アップ・老化防止に効く! 科学的なデータにもとづく最新栄養学と、中国三千年の豊かな経験による漢方食養生、そして現代医学の知識を結集して1冊にまとめた“食”の総合医学百科です。

青春18きっぷ旅行術(JTB) 松尾定行著



乗れば乗るほどトクをする!
東京から京都までたった2300円

お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい (産経新聞社)向野 幾世著



ぼくが生まれて
ごめんなさい
ぼくを背負う
かあさんの
細いうなじに
ぼくはいう
ぼくさえ
生まれなかつたら
かあさんの
しらがもなかつたらうね

新聞・テレビで大反響。時を越えた愛と感動のノンフィクション。27年前にわずか15歳で亡くなった脳性マヒ児の詩に多くの人が涙した。

9/14~10/5 公開講座終了 —身近なテーマ12講座を開講—

9月14、21、28、10月5日の4日間にわたり、公開講座が開催された。本年度は、栄養科学部・人間発達学部開設記念行事として、「子どもの発達と教育・子育てを考える」「生活習慣病の予防—糖尿病—、動脈硬化—」「アジアとの関わりを考える」の3つのテーマで12講座を開講。参加した受講者の満足度も高く、盛会のうちに終了した。

10/6 全国朝市サミット 「呼子朝市」活性化へ本学学生が提言 —名物のイカを使った新商品も販売—

若者離れや、後継者不足などの課題をかかえている佐賀県東松浦郡呼子町の委託を受けて、流通科学部が今年の春から呼子の市場調査に着手した。神品教授、片山講師、土橋助手を先頭に、流通科学部の学生が朝市に訪れた観光客や地元客にアンケート調査などを行った。



▲実演販売の様子

調査結果は「呼子朝市への提言」として、10月6日に行われた全国朝市サミットで発表。鮮度やコミュニケーション、品質など好印象を得ているが、品揃えや商品表示に改善点もある、などの調査結果を発表。活性化のため、「夕市」を創設する案も飛び出した。学生たちは、呼子名物のイカを使った、3種類の新商品を実演販売し、人気を集めた。また、学生の作曲した朝市のテーマソング「グッドモーニングラブリースマイル」も、好評を得た。

10/12 アジア栄養科学ワークショップ —テーマは「環境因子と栄養」—

大学院栄養科学研究科主催の「第11回アジア栄養科学ワークショップ」が西1号館10階にて開催された。

今回のテーマは「環境因子と栄養」。環境因子が身体に及ぼす影響について、3人の先生方が講演を行った。福岡市内外から多くの参加者が集まり、活発な討論が行われた。講演の内容は次のとおり。

「有機ハロゲン化合物汚染の実態とその毒性発現機構」

古賀信幸教授(栄養科学部)

「アジアでのヒ素汚染の実態とその毒性発現機構」

熊谷嘉人先生(筑波大学社会医学系助教授)

「栄養素と腸内環境」

藤井康弘先生(大塚製薬株式会社消費者製品開発部R&D調整室課長)

10/28 山元学長退任記念講演会

山元寅男学長の退任を記念して、講演会が開催された。演題は「中村学園大学における栄養形態学の教育と研究」。本学における研究の一端を、綺麗な電子顕微鏡写真で講演され、研究内容の素晴らしさと言うにおよばず、人体の構造としくみの巧妙さに新たな感動を与えられた。



これまで本学教員に対し「学生に分かり易い講義」を繰り返し強調された学長であったが、今回の講演はまさに「分かり易く、探究心をくすぐられる」ものであった。

講演が行われた西1号館10階大講義室は、本学学生・教職員をはじめ、教職員OBや同窓会の方々で満員となり、講演後、花束とともに惜しめない拍手が送られた。

8/2~26 メルボルン大学語学研修 —英語・文化海外研修—

8月2日~8月26日の約1ヶ月間、オーストラリアのメルボルン大学語学研修に、大学生23名が参加した。

研修では、オーストラリア人の家庭にホームステイをしながら、本学のために特別に組まれたプログラムを受講した。「生きた英語」はもちろん、外国の生活、習慣、文化等につくりと触れることができるため、毎年多くの学生が参加している。

8/3・9/22 オープンキャンパス —3,023人の参加者がキャンパスへ—

受験生を対象に、2回にわたって開催された。当日は、キャンパスツアー、入試問題の傾向と対策など、様々なイベントが行われた。模擬授業では、「オリジナルTシャツ」や「とびだすグリーティングカード」作成、「カロリリーチェックコーナー」



など、参加者は楽しみながら「学部・科」を体験していた。8月3日は2,121名、9月22日は902名、計3,023名の参加者が訪れた。

8/26 薬膳研究室主催 公開講座 —薬膳を食べて学んでヘルシーライフ—



本学の薬膳研究室主催の公開講座、テーマ「薬膳を食べて学んでヘルシーライフ」が、西部ガスのパビヨン24にて行われた。(後援:福岡県、中国駐福岡総領事館)。

公開講座1部では、上海中医薬大学前学長の施杞氏による講演「中国四千年の食文化〜薬膳〜」、2部では、本学山元寅男学長による講演「健康の扉を開ける薬膳」が行われた。講演後のQ&Aコーナーでは、本学三成由美教授、産業医科大学講師の徳井孝孝氏が回答した。

会場には本学と上海中医薬大学との薬膳研究成果が紹介され、三成教授が夏の旬の野菜を使った薬膳料理を試作し、洋食はタカクラホテル福岡、中華は福新楼の両シェフの協力を得て、参加者約400名全員に薬膳料理を食べてもらうことにより、薬膳を身近においしく体験してもらい大成功をおさめた。

9/10 指導主任研修会

9月10日、「国際化時代における大学生像—将来の国際化時代を担う大学生、諸外国の事例を参考に本学のあるべき大学生像について考える」をテーマに指導主任研修会が行われた。理事長による特別講話のあと、以下の3つの講話が行われた。

「東アジアにおける大学の変化と課題」山田達雄教授(人間発達学部)

「私の見た英国の大学(生)」山根一文教授(栄養科学部)

「米国における大学生の目的意識」Michael W.Hall講師(流通科学部)

9/10 教育ワークショップ

9月10日、合同学務委員会主催により教職員を対象に教育ワークショップが開催された。テーマは「FD推進の取組みの現状と今後について」。FD(Faculty Development)推進への取組みや現状を学部・科ごとに報告し、討論を行った。

研究助成・受託研究等採択状況

社団法人全国保育士養成協議会(受託研究)(学外共同)

『効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅰ～保育実習の実態調査から～』

本研究では、(社)全国保育士養成協議会に加入している保育士養成所(大学・短大・専門学校・養成所)306校(2002年4月現在)を対象に、「保育実習」(保育所実習と保育所を除く児童福祉施設実習)の実態を独自の調査票をもとに明らかにしたものである。

調査票については、大きく分けて①「各養成所の概要」、②「実習の目的と達成状況」、③「実習実施体制」、④「実習指導の内容」、そして⑤「実習施設との連携」の5項目にわたって構成されている。今回は特に単純集計結果と各項目別、そして各項目間における若干のクロス集計をもとに考察を加えている。

調査結果は全国規模でのデータであり、そこに示されるデータは「実習」をひとつの柱とする各養成校の特色ある「教育」や「指導体制」を生み出す糧となりうるため、本研究が今後の保育士養成の充実のために果たす役割は大きいと考えている。

〈研究者〉
那須 信樹 講師
(短期大学部 幼児教育科)



佐賀県呼子町役場「産業育成ビジョン作成事業」(受託研究)

『呼子朝市プロジェクト～朝市活性化に向けて』

〈研究者〉 神品 光弘教授(大学 流通科学部)
片山 富弘講師(大学 流通科学部)
土橋 治子助手(大学 流通科学部)
林 辰美助教授(大学 栄養科学部)

交付金額/4,295,900円

サミット参加学生(39名)/

梅田佳奈、安藤舞子、大隈弘恵、原田恵里、山本恵美、
富永久美子、竹本恵美、池田加奈、白石めぐみ、家永雅子、
干治松早紀、寺岡愛、福田悦子、森岡英里、松本彩、
千代田真由子、田中沙織、藤田直子、池永さやか、江口諒子、
中村祐子、渡島由紀、松隈圭子、若林まどか、白石強、
田中美奈子、江藤愛、田中陽子、白石幸弘、坂田圭史、
内田祥、渡佐間朋子、呂宏如、渡邊理絵、鎌ヶ江英洲、
笹木貴史、森永亮太、梶原康太、竹崎克俊



神品 光弘教授



片山 富弘講師



土橋 治子助手



林 辰美助教授

佐賀県呼子町が平成14年10月に第8回日本全国朝市サミットを開催するにあたり、「今後の朝市のあり方を探りたい」と、本学流通科学部に委託調査の依頼があった。それを受けて、呼子町朝市の活性化への提言に向けて、朝市のイメージ・満足度調査を観光客や地元客などを対象に実施した。また、新商品開発として店頭実験をはじめとする模擬店舗出店による新商品調査を実施した。

大塚製薬株式会社(受託研究)(学外共同)

『高脂血症におけるバナジウム含有水の糖質・脂質代謝に及ぼす影響』

肥満、運動不足、ストレスなどがもたらすインスリン抵抗性(インスリンの作用不足)が、糖尿病、高血圧、高脂血症の発症の基盤にあることが知られている。これまでの研究で、高脂血症(高飽和脂肪酸)負荷が、インスリン抵抗性をきたすことを明らかにしてきた。一方、バナジウムは、インスリン抵抗性を改善することが報告されており、本試験では、高脂血症(高飽和脂肪酸)によって生じる軽度のインスリン抵抗性に対するバナジウム含有水の効果を検討することを目的とする。

〈研究者〉
伊藤 和枝 教授(大学 栄養科学部)
〈共同研究者〉
坂田 利家 教授(大学 栄養科学部)
古賀 里利子 助手(大学 栄養科学部)
交付金額/500万円



財団法人江頭外食産業及びホテル産業振興財団研究開発助成(研究助成)
『24時間社会の食事の研究』

健康維持のために
は提供する時間帯に
あったメニューの開
発が重要となる。時間

帯別の食事に医学的な検証を加え、健康に寄与する食事を研究する。排便状況の改善、血糖値の上昇抑制、血中コレステロールの改善などが期待できる食物繊維に焦点をあて、昨年度収集した基礎データから食物繊維含有量の高い食品を開発する。

〈研究者〉
三成 由美 教授(大学 栄養科学部)
徳井 敦孝 氏(産業医科大学 講師)
福本 あずさ 助手(大学 栄養科学部)
交付金額/150万円



教職員の出版物

著者は、本学教員のみ記載



精神分析事典

山崎 篤 分担執筆
短期大学部/幼児教育科/講師
岩崎学術出版社
平成14年3月発行



批判的合理主義

-ボバー哲学研究会編-
青木 英実 共著
大学/人間発達学部/教授
未来社
平成14年8月発行



ここを育てる人間関係

那須 信樹共著
短期大学部/幼児教育科/講師
保育出版社
平成14年8月発行



精神保健

山崎 篤共著
短期大学部/幼児教育科/講師
建帛社
平成14年9月発行



新版
幼児教育課程論

那須 信樹 共著
短期大学部/幼児教育科/講師
建帛社
平成14年10月発行

教職員の動き

退職

(平成14年7月31日付)
教務課課員 神野 裕子
(平成14年9月30日付)
経理課課員 國崎 美加

配置換え

(平成14年8月1日付)
中村学園女子中学校・高等学校図書館室員 谷頭 知加子
(図書課課員)
(平成14年11月1日付)
入試課係長 溝口 恒 (教務課係長)
教務課係長 赤司 博文 (入試課係長)
経理課課員 石川 文子 (庶務課課員)

採用 (平成14年8月1日付)



セミナーハウス主事



セミナーハウス
事務職員

上田 静男 上田 由美

寄附行為による人事

(平成14年11月1日付)

顧問 山元 寅男 (学長)
学長 藤本 淳 (大学院教授)

雨の日も濡れません！

体育館から西4号館入り口までの屋根つき連絡通路が今年9月、完成しました。これにより、雨の日も傘を差さずに校舎間の移動ができるようになりました。





学校法人中村学園は、学園祖中村ハル先生が設立され、昭和28年(1953)12月24日に福岡県知事の認可を受け、翌、昭和29年(1954)4月福岡高等栄養学校を設置し、中村学園がスタートしました。昭和29年(1954)4月の福岡高等栄養学校開学から、平成16年(2004)4月で満50年を迎えます。